

月並みなはなし

二〇一〇年二月二七日 三演版 黒澤世莉

一幕一景 一〇〇分

登場人物 九人 男四人 女五人

イシヤマススム 男 三〇歳前後 フリーター。ユリコの夫。

コスギコウドウ 男 四〇歳前後 軌道衛星会社勤務。モリの恋人。

タカハラアマネ 女 二五歳前後 パン屋勤務。

オノデラキリン 女 二五歳前後 デパート勤務。

シヨウジュリコ 女 三〇歳前後 金融会社勤務。ススムの妻。

カンバラユキチ 男 三五歳前後 衆議院議員。

註：右六人は「月面都市一般移民一次募集」応募者、某グループのメンバー。

セガワハナ 男 三〇歳前後 月面開発機構職員。ミミの兄。

セガワミミ 女 二五歳前後 家事手伝い。ハナの妹。

オオバヤシモリ 女 三〇歳前後 コウドウの恋人。

時代 宇宙にひとが住み始めたころ。

時間 一〇月。日曜日。一三時ごろ。

場所 日本、東京郊外。気持ちよく晴れた日。庭園の中にある、いくつかの広い個室のあるレストラン、その一室と、テラス。

註

*▲ ↓ テラスの人物の言葉

*（ ） ↓ 行動やセリフの意味の補足

意図的にト書きは最小限にしてある。また、台詞の改変も一向に構わない。演出家の意図に応じて、良い演劇を自由につくられたし。

本編

テーブルにヘルメットとハンマー。ススム、ユリコ。

ユリコ よそでもやるかな、残念会とか。

ススム どうか。やらないんじゃない。

ユリコ みんな元気かな。

ススム 元気だよ。

ユリコ ほんとにい。

ススム そりゃ、やっぱ、ちょっと。

ユリコ あんなススムくん初めて見たよ、試験中の。

ススム 別に、そんなに、違わないでしょ。

ユリコ お金貯めてさ、行こうよ。新婚旅行。

ススム いまさら。

ユリコ 月。

ススム 何年かかるかな。

ユリコ うーん、すぐってわけにはね、でも五年もすればだいぶ安くなるし。

ススム 就職できるかな。

ユリコ いやそうだね。

ススム 先になんか、頼んじゃおうか。ユリコ何が良い。

ユリコ 冷えた白、やっぱりビール。

ススム 飲むんだ。

ユリコ いけない。

ススム、退場。モリ、入場。

モリ ユリコさん。

ユリコ あ、こんにちは、モリさん。

モリ こんにちは。よかった、知っている人で。

ユリコ 一緒じゃないんですか、コウドウさん。

モリ ちょっと用事で。彼まだ。

ユリコ みたい。(道に)迷ってるのかも。

モリ タクシーで来ますよ。

ユリコ 歩きましたよ、私たち。

モリ 歩いていらしたんですか。

ユリコ ええ、今日は(一〇月にしては)涼しい。好きなんです。あのイチヨウ並木。

モリ たしかに、お散歩日和かも。

ユリコ 一〇月ってこんなに暑かったっけ。

モリ コート出してみましたね、毎年八月には買って、いまかいまかと。

ユリコ なんか良いことあったでしょ。

モリ あれ、わかります。

ユリコ プロポーズ。

モリ それは、まだ。

ユリコ なんだろう、おめでたいこと。

モリ それです。

ユリコ あら。あら。まあ、おめでたい。

モリ まだ彼には言っていないですけど。

ユリコ じゃあ、今日発表しちゃいましょう。

モリ それは、困っちゃうな。

ユリコ いいじゃないいいじゃん、雪崩式に結婚しちやいなよ。

モリ それはちょっと、ちゃんと自分で言わせますから。

ユリコ 私が言っただげるって、結婚なんて勢い勢い、勢いオンリー。

モリ さすが、経験者は語る。でも。

ユリコ なに。

モリ あの人諦めてないから。月。ユリコさんは、なんで月に住みたいと思っ
たんですか。

ユリコ ええ。

モリ 正直、わたしぜんぜん分からないから。

ユリコ コウドウさんに聞きなよ。

モリ あの人に聞いても(教えてくれないし)。

ユリコ 参考にならないと思うけど。

モリ いいですいいです。

ユリコ モリさん歩くの好きですか。

モリ はい。

ユリコ 月まで歩いていけると思います。

モリ えー、どうかな。

ユリコ カンで。

モリ 行けないんじゃないですか。

ユリコ さて、どうでしょう。月までの距離って知ってますか。

モリ 分からないです。

ユリコ だいたい三八万キロメートルくらいです。

モリ 全然イメージわかない。

ユリコ 地球を一周すると、だいたい四万キロくらい。その一〇倍。

モリ うーん。

ユリコ 一日一〇キロのピクニックができるとして、地球一周は四〇〇〇日、だからだいたい、二二年くらい。その一〇倍だから、二二〇年。

モリ じゃあ無理ね。

ユリコ えー、行けるよ。長生きすればぜんぜん行ける。

モリ だって、今から出発して、一四〇歳とかですよ。

ユリコ 長生きすればいいじゃない。あれ、なんか話ずれてるかな。

モリ なんだか分かった気がします。そういう気持ちなんですね。

ユリコ 普通だと思っけど。

モリ ススムさん、置いて行けますか。

ユリコ それは無理かなあ。

モリ へー。ごちそうさまです。

ユリコ そんなんじゃないってば。だって一人で二二〇年は退屈じゃない。

ススム、入場。

ススム あ、モリさんこんにちは。

モリ こんにちは。

ススム (注文)あとで聞きにくるって。

ユリコ そう。

ススム わかりました。ここ。

モリ タクシーで。

ススム ああ。先週あれ、ありがとうございました。

モリ いいえ、コウドウがね、お二人の話をいつもしてるから、こっちこそ無理言ってお誘いしちゃってご迷惑じゃなかったかしら。

ススム 気が進まなかったですけど、

ユリコ くら。

モリ ああ、やっぱり。

ススム いや、行ったら美味しかったです。

ユリコ ○点。

ススム 楽しかったです。

モリ ははは。

ユリコ ごめんなさい。

モリ あ、ごめんなさい。ほんとあのひとから聞いてたとおりだなって。

ユリコ どんなふうに言ってたんですか。

モリ とても月に行くようには見えないって。良い意味で。

ススム 良い意味で。まあ似合わないですよ。

ユリコ いやいやお付き合いだもんね、私に。

モリ すごいなー、天文学者。

ユリコ そんな、大学でちょっと勉強しただけで、全然。結局やめちゃったし。

ユリコ 結局辞めちゃったし。

モリ 恋に落ちて。

ユリコ そんなんじゃないけど。

ススム そんなじゃないです。

ススム ここ、美味しいですよ。

モリ ね、結婚式されたって。

ススム 僕は全然なんですけど、(ユリコが)そういうの好きで。いや、美味しかったです。

モリ 楽しみ。

ススム なんだっけ、こう、羊だか豚だかを、煮るだか蒸すだかした、醤油みたいな塩みたいいな味付けのが美味しかったですよ。

モリ ああ。お肉だ。

ススム ね、ユリコ

ユリコ ススムくん、もし一人なら月に行けるってなったら、どうする。

ススム え。行きたい。

ユリコ マイナス一〇〇点だよ。バカ。

ユリコ、退場。

モリ 何でも言いあえる仲って、いいですね。

ススム そうでもないです。

モリ ちゃんと怒れるのって、素敵です。

ススム はあ。

モリ でも、今のはあんまり、良くないと思います。

モリ、退場。 ミミ、入場。

ミミ ども。

ススム ああ、こんにちは。

ミミ このたびは、なんというか、あれですね。

ススム ええ。

ミミ ご家族の方で、ニシヤマさんの。

ススム はい。

ミミ あの。おめでとうございます。

ススム はあ、ども。

ミミ ほんと、よろしくおねがいします。いろいろ。

ススム あの、すみません、どちらさまですか。

ミミ あ、ごめんなさい。わたし、あれです、セガワミミです。ミミは耳です、ほら、ここ、顔の耳。

ススム かわってますね。

ミミ よく言われます。

ススム どういう意味です。

ミミ 耳です、頭の。聞いたりする。

ススム ええ、耳ですよ。耳。それは、どういふご両親の、あれがあるので
すか。

ミミ そういう意味ですか。なんでしょう、イメージ的には、なんでしょう。
ススム やっぱありますよね、なんか、パーツの名前つけるってことは身体の
意味がそこに。

ミミ 軽く聞いた感じではあれみたいです、昔であやふやですけど。話とか聞
く感じになってほしかったみたいです。

ススム ああ、そういう。

ミミ 自分ではあれです、ちゃんと聞いている勢いあるっていうか、そんなにな
んばってるってあれじゃなくて、その、自然なムードを大切にしたいっていう
か。あるじゃないですか、よく言うやつ。人の目を見て話すとか、そういうの
がいいって言いますけど、実際目とか見て話すのってあれですよ。だから目
はあれなんですけど、耳は見られるっていうか、目と耳の間あたりを見るって
いうか、聞けるのが聞きやすいほうじゃないですか、そのほうが、聞くって
いうこつちのあれを、伝わってます。

ススム わかりますよ。なんつーか、難しいですよ。

ミミ え何が。

ススム すみませんなんか、てきとうに言っちゃって、いやてきとうってそ
ういう意味じゃないんですよ聞いてなかったとかじゃなくて、

ミミ すみません。いろいろ考えてるうちに、言いたいことがわかんなくなっ
ちやうんです。

コウドウ、入場。

コウドウ おす。

ススム ども。

ミミ こんにちは。セガワです。このたびはどうも、なんというか。

コウドウ コスギです。えーと、どういう（ご関係の方ですか）。

ミミ セガワのあれです。

コウドウ あー。よろしく。なんだこりゃ。

ススム ハンマーですよ、ぼくの。

コウドウ お前の。

ススム みんなで遊べるかなって、個室だし。

コウドウ ふうん。奥さん元気。

ススム みたいです。

コウドウ なんで一緒じゃねえんだよ。

ススム それは、なんていうか、こっちが聞きたいですよ。コウさんは。

ミミ、退場。

コウドウ ね、誰。

ススム 知り合いじゃないですか、誰かの。

コウドウ え、知らないの。

ススム はあ、なんか、来たんで。あ、先週、ありがとうございました。御馳走になっちゃって。

コウドウ なんも。

ススム モリさん、さっき来てましたよ。ユリコとどっか行っちゃいましたけど。

コウドウ 仲良くやってんだ、あ、そう。

ススム しましたか。プロポーズ。

コウドウ 来た。

ススム 言ってましたよね、するって。月（移民）落ちたら。

コウドウ してない。

ススム えー。

コウドウ 機会がな。なくて。

ススム そんなこと言ってるよ、一生機会がなくなっちゃいますよ。

コウドウ わかってる。

ススム 結婚なんて勢いですから。僕、半ば無理矢理言われましたから。

コウドウ お前らしいよ。

ススム じゃ、みんな揃ったら言ってくださいね。

コウドウ 馬鹿野郎、そんなことできるか。

ススム え、じゃあいつやるんですか。今日そういう会ですよ。

コウドウ 帰る。

ススム あ、ウソですウソです、ただの残念会です。

キリン、入場。

キリン ねね、さっきのニュースみた？

ススム マリナーズ、ワールドチャンピオン。

コウドウ やられたよイチロー監督。

キリン バカじゃないのあんたたち。

コウドウ (バカじゃ) ないよー。

キリン ニュース(見てないの)。

ミミ入場。

キリン インド洋に墜落、中国のスペースプレーン、デブリにやられて。

ススム それ移民船の。

キリン 連絡来ないの。衛星つくってんでしょ。

ススム サイズは、デブリの。

キリン 知らないけど、微小デブリって(言ってたよ)。

ミミ あの、デブリって何ですか。

キリン 宇宙ゴミ。なんか、宇宙ってゴミがいっぱいちらかってんのよ。で、すごい小さいんだけどすごいスピードでぶつかっちゃうと、事故っちゃうわけ。ていうか、どちらさま？

ミミ すみません、申し遅れました。

キリン いえこちらこそ。

ミミ あの、あの、セガワミミと申します。ミミは耳のミミです。

キリン え。

ミミ 顔についてる、二個ずつ。

キリン 分かんないわよ。

ミミ え。

キリン 一個のひともいるでしょ。

ミミ あ。

キリン オノデラキリンです、えっと、同じグループの。美人です。

ミミ ああ。

キリン (どなたかの)ご家族。

ミミ はい、あの、セガワの、

ユキチ 入場。

ユキチ ここか、おお、いたいた、みんな。

ススム よ。

キリン おはようございます。

ユキチ いやびっくりしたなあれ。

キリン ねー。映像みた？

ユキチ 見すぎ、シートクからもうガンガンよ。

ススム 心配だね、移民計画。

ユキチ ああ、でも、もう流れ止まんないっしょ。

ススム そう思うけどさ。

キリン ああ、自分たちだったらと思うと、怖いよね。

ユキチ (微小デブリはレーダーでも)分かんねえしな。

コウドウ いやあ、中国だろ。デブリのせいにしてるんじゃないの。
麒麟 何を。

コウドウ 整備不良とかさ。
ユキチ ありえる、つかテロって噂も。

コウドウ テロならまだいいけどよ、アメリカさんの作戦だったら。
ユキチ ありえる。

ススム 映画ですなそれ。

コウドウ 薄いなー危機感。

ススム 本当は無事に飛んでいて、けど事件だけねつ造された、って可能性も
ありますね。

ユキチ ほう、面白い。

コウドウ退場。

ススム これは住民法を施行したくて宇宙開発予算を削りたい与党が考えたん
じゃないですか。

ユキチ なになに、俺批判。

麒麟 テレビ出てたよね、ユキチ、

ミミ 芸能人。

麒麟 国会議員。あはははは。

ユキチ 笑うところか。

麒麟 思い出しちゃった。超やじってんのニュースで。

ユキチ そりゃ、俺だって嫌だけどさ。

ススム 住民法は反対して欲しかったです。

ユキチ あー、月に行けてりゃあなあ。

麒麟 情けないな、二世議員。

ユキチ 意味分かって言ってるかい。

麒麟 親子で政治家やること。

ユキチ あ、わかってんだ。

麒麟 根性みせんかい。

ユキチ オス、こんど議事堂の窓ガラス壊して回ってくるわ。

ミミ 私も行きます。

ユキチ あ、冗談ですよ。

ミミ ええ。

ユキチ 免職くらいじゃすまなくなるんで。てか、オレ議員やってるカンバラユキチです、

ミミ ぼくはないですね。

ユキチ よく言われます。イメージ変えるんで、ナウなヤングな国会議員、デートは永田町へ、いま裁判傍聴がトレンドイ、みたいな。

ミミ へえ。あの、セガワミミです、ミミは顔の耳です、でも耳って言っても確実に二つあるってあれじゃないんですけど、おおむねの人には二つついてて聞くあれです。

ユキチ 君、個性的だね

ミミ よく言われます。

キリン 仲良くやって行けそうな気がする。

ミミ わ、嬉しいです。よろしくおねがいします。

ユキチ で、どういう、

コウドウ、入場。

コウドウ うちのサットで確認取れてる。ステーションから救助に向かったって話、だけど。

ユキチ そうか。黙祷、しようか。

コウドウ いやそれはやめとこつ。

キリン 私五分は酸素無くてオッケーだから。

コウドウ 破裂するぞ、気圧差で。

キリン 耳抜きする。

ユキチ 鋭い。

キリン シンク口なめんなよ。

ミミ すげい。

キリン ま、プールも宇宙も似たようなもんだからさ。
ススム ほんと、助かると良いですね。
コウドウ ああ。

アマネ、入場。

キリン きゃーアマネ、ひさしぶり。
アマネ そうだったけ。

キリン 二週間。

アマネ あんまひさしぶってないよね。

キリン 辛口ですよ、アマネさん。

ミミ すいません、なんか、うちのみんな遅くって。

ススム いや来ますよ、まだだし(時間)。

ミミ ほんといつつも、ルーズで。

アマネ メニュー。

ススム あとで来るって、そっぴや遅いね。

アマネ 聞いてくる。(みんなも)飲む。

全員挙手。 アマネ、退場。

キリン アマネ、可愛いなー。

ミミ 私、思うんですけど、部屋間違えてませんか。

キリン ミミちゃんは誰の知り合い。

ミミ セガワです、セガワハナ。の、結納って。

ススム ここは、月面移民の、最終選考で落ちた残念会です。

ミミ あの、移民候補の。

キリン うん。

ミミ いやだ、なんで。

キリン セガワハナって、ハナちゃんだ。

ミミ わたし、あれだ。わたし、すみません、ほんとごめんなさい、間違えち

やった。

コウドウ 結婚すんだ、あのひと。

ミミ お邪魔しました。

キリン まあまあ、お茶でも飲んで行きなさいよ。

ミミ もう死んでしまいたいです。

キリン 生きる。ミミちゃんやわらかいから。

モリ、入場。

ススム ああ、モリさん。

モリ さっきはごめんなさい、

ススム いいえ。こちら、モリさん、コウドウさんの。

キリン キリンです、オノデラキリン、

モリ エレベーターの。

キリン はい。

ユキチ カンバラユキチです。

モリ 月の大統領。

ユキチ ええ。まぶいっすね。

コウドウ まあな。

モリ いいんですか。私が来ちゃって、みなさんの集まり。

ユキチ 何言ってるんですか、コウドウの家族はコウドウですよ。

コウドウ オレじゃないけどね。

モリ はい。ええと、パン屋さん。

ミミ 家事手伝いです。

モリ ごめんなさい。

ミミ 仲間、仲間、仲間、仲間、部外者です。

モリ あ、じゃ、私と一緒にですね。

ミミ いい人だあんた。

ユキチ (モリに) よかったですね、コウドウ、月に行かなくなって。

モリ どうかしらね。行っちゃった方がすっきりしたかも。

コウドウ 冗談なっていないからキミたち。
モリ すぐ怒る。

コウドウ 怒ってないでしょ、いまのは。
ユキチ イチャイチャすんなよ。
コウドウ してねえよ。

ハナ、入場。

ハナ お邪魔いたします。

ミミ ハナちゃん。

ハナ なんでミミちゃんいるの。

ミミ 結納、今日。

ハナ バカ。夜だ。それ。

ミミ え。

ユキチ ハナちゃん結婚するの。

ハナ ああ、結納ですけど。

ミミ ほんと、みなさん、すみませんでした。

ススム 兄弟いたんですね。

ハナ まあ、いますよ。

ススム セガワってどっかで（聞いたことある）と思ったんですよ。

ユキチ 仲いいっすね。

ハナ そう見えますか。

アマネ、ユリコ、入場。

ハナ ああ、これで全員ですね。

キリン ちよつとなんであなたが仕切ってるんですか。

ハナ すぐ出ます。ちよつといいですか、みなさん。このたび、月面都市一般移民一次募集者に、欠員ができました。旧候補者の中から補欠を選定して、一般移民資格を与える運びになりました。つきましてはこの場の総意で、旧グルー

プディーニジュウニのメンバーから、一名の、月面都市移民代表者を選んでください。時間制限は六〇分。

キリン ちょっと待って。

ハナ どうぞ。

キリン なんでもないです。

ハナ 六〇分たったらまた来ます。ああ、わかっていると思いますけど、時間内に総意が得られなかった場合は、この話はなかったことになりますから。あ、あと、あれです。おなか減ってますよね。でも店の人には来ないように言っているんです。あれです、あんま関係ないけど、その後存分にお召し上がりください。この料理、美味しいですよ。とくに、豚だか羊だかを、煮るだか焼くだかしたやつ。

ハナ、退場。

ミミ ええ。

コウドウ (モリにアマネを紹介して) パン屋さん。(アマネに) うちの。

モリ はじめまして、オオバヤシモリです。

アマネ どうも。

ユリコ (ミミに) どなた。

ミミ あの、部外者です。家族です、セガワの、いまの。

ユリコ ああ。シヨウジユリコです、このグループの。

ミミ すいません、なんか。

キリン ぜんぜん納得いかないよ。

ユキチ みんなで(行こう)って決めたのにな、絶対。

アマネ とりあえず、お茶(飲んで)。

ミミ あのわたし果てしなく場違いなエナジーびんびん感じてるんですけど。
ユキチ どうすんだこれ。

コウドウ 一人、選ぶんだろ。

モリ 帰ろうか。

コウドウ いないとまずいんじゃないか。

ススム いや、それは、どうですかね。

ユリコ お二人がいづらいんじゃない。

ススム うん、でも、わりと条件ぽいし。

キリン 気に入らない気に入らない気に入らない。

モリ 私はいいですけど。

ミミ イヤわたしだってそりゃイヤじゃないって言えば嘘になりますけどぜんぜん意味わからないし、なんかハナちゃん嫌われてますよね。

キリン うん。

ミミ すみません。

キリン ああごめんそういう意味じゃないんだけど。えー、もういいじゃん、帰る。

ユリコ ダメ。

キリン なんでよ。

ユリコ うまく言えないけど、六人で行こうと思ってがんばってきて、それはとても大切なことだけど。

ススム だからみんなで行かないって言うより、誰か一人ぼくらの代表者には行ってもらった方が。

ユキチ 甘い、甘いね。いいなあちくしょう。

キリン あんた黙ってなよ。

ユキチ オレも二人にさんせい。こーなったらさ、オレが行くってことで全員一致だよね。

アマネ ない。

ユキチ ほんと、辛口ですよね。

コウドウ じゃあ、この六人から代表者を月に送り出すって言うのは、反対なしね。

キリン でもそれだって嘘かもよ。だってあいつ、この組全員落選ですって言ったじゃない二週間前。それがなんでこんなときに一人選べって話になるのよ、なんかまた話が変わってさ、けっきょく誰も行けませんチャンチャンとかなるんじゃないの。

ユリコ キリンは優しいから。じゃあ、止めちゃおっか。

コウドウ 改めて聞くけど、この六人から一人選ぶのに賛成の人、挙手を願います。

間。ミミとモリ以外、挙手。

コウドウ (ミミとモリに) 君たちは。

モリ 私たちも(手をあげるの)。

コウドウ (オしたちの中じゃ、何をするにも)全員一致が原則だったからさ。

モリ 邪魔じゃない。私たち。

ユキチ そんなことないっすよ。

アマネ (私たちを)知らない人がいて、それっていいんじゃない。

キリン どうして。

アマネ 私たちは選挙者で被選挙者でしょ。

キリン なるほど、関係ない方が、いいこと言えるときもある、ってこと。

アマネ そう。

ユリコ いいんじゃない、面白そうだし。

モリ じゃあ、いいけど。

ミミ じゃあじゃあ、あれですあれします、わたしも。

コウドウ よし。あと五五分くらい。

ススム いったんまとめます。

コウドウ そうだね。

ススム あと五五分で、六人の中から一人を選んで、代表者になっていただきます。結論はいまから五〇分後、でいいですか。五〇分後に、この部屋にいまいる八人全員の意見の一致をみて、我々の結論とします。三分くらい考える時間があった方がいいと思うんですけど。

コウドウ 休憩にしよう、灰皿、

ユリコ 禁煙。

コウドウ どんなレストランだよ。

ユキチ 月仕様だよ。

モリ そっち(テラス)で吸えるみたいよ。

コウドウ じゃ、とにかく五分でタバコなりトイレなり済ませてくれ。ススムの合図で話し合いを始めるよ。

ススム、コウドウ、テラスへ。

▲コウドウ まいったな。

▲ススム まあ、あれです。なるようになりますよ。

▲コウドウ だな。

▲ススム いいライターですね。

▲コウドウ うん。ちょっとな。

▲ススム ゆずってください。

▲コウドウ ああ。月と交換だ。

モリ 月仕様。

ユリコ ああ、あっちじゃね、たばこ吸えないの。

モリ じゃだめじゃないコウドウ。

ユキチ けっこうきつかったらしいっすね。

ユリコ ま、こっち(東京)だってタバコ吸えるところ(レストラン)へったし。

ユキチ トウーレイトだよ、(海外) むこっじゃ三〇年前からシキジヨー。

▲ススム プロポーズどころじゃなくなっちゃいましたね。

モリ (あなたは) 吸わないんですか。

ユキチ 自分は(ないですね)。

ミミ 吸ってそうですよね。

ユキチ どっちかつうとバッドガイで売ってますんで自分。

キリン 悪いこと言わないからさ、一回測ってもらった方がいいよーQとか。

ユキチ 測ったつうの、お前も受けたる試験で。

ミミ 試験で、月に行く試験ですか。

ユリコ そう。

ミミ どんなことするんですか。

ユキチ まず試験どうこうの前に条件があって、アピアランスとスリーサイズね。

キリン よく通ったわね。

ユキチ 嘘つきました。英語しゃべれて健康状態チエキ、あと極端にデブな人とかエヌジーね、船に乗れないからさ。で、そのへんパスしたら試験よ。

キリン すごいよなんか、ケーブルとかヘッドセットとかついたりさ、重力試験とかちようキモイのもうあれはほんと笑う。で、四次試験まであって、二次で体力や賢さみたいなのをテストして、三次で面接とプレゼン、最後は二週間、チームごとに閉鎖施設。

ミミ ああそれ見ましたあれで、バイオハザード。

ユリコ バイオスフィア。

モリ 大変そうですね、二週間も。

ミミ 外に出られないんですね、一步も。

ユリコ そう。

ミミ なんか、ここだけの話とか、ないんですか。

キリン そりゃいろいろありましたよ。

モリ ええ、気になる。

ユキチ 聞いてないんですか(コウドウから)。

モリ あの人、そういうことはあまり。

▲コウドウ 一人でも上に上がった方がいいもんな。

▲ススム もちろん。

▲コウドウ やるか。

アマネ 言いたくないのも分かる。

ミミ えー私べらべらしゃべっちゃうけどなあ、

キリン 私も。モリさんだって聞きたいですよねえ。

モリ もう慣れました。

▲コウドウ ちょっと、あれと、二人で話していいかな。

ススム、うなずいて、レストランへ。

ススム モリさん、ちょっと、いいですか。

モリ え。ああ、はい、ありがとう。

モリ、テラスへ。

▲コウドウ よ。

ユリコ 人ごとじゃないね。

ススム うん。

ユリコ どうしようか。

ススム どうもこうも。ねえ。

▲コウドウ いい天気だな。

▲モリ 行きたいんでしょ。

▲コウドウ うん。

キリン なんて一緒じゃいけないのよ。

ユリコ そう、言ってみるのもいいかもね。

キリン じゃそうしよう、一人だけ、意味ないもん。(ミミに) ね。

ミミ はいはいはい。

ユキチ そいうわけにはいかんでしょ。

▲コウドウ いいかな。

▲モリ ダメ。

ユリコ 一人でも、行きたいんじゃない。

キリン うん。

ユキチ そらそうですよ。

キリン 事故はちよつと怖い。

▲モリ でも、行きたいんでしょ。

▲コウドウ うん。

アマネ 大丈夫だ。

ユキチ それがさつき、あったんだな。移民船が事故で全員行方不明。

▲モリ じゃあ、行ったらいいじゃない。

▲コウドウ ごめん。

▲モリ うん。

アマネ そうだとしても、そんなの最初から覚悟してるでしょ。

▲コウドウ 行ってきます。

▲モリ まだわからないでしょ。

▲コウドウ うん。

アマネ それが怖かったら、はなっから応募なんかしない。

▲モリ 私、外で待ってるから。

モリ、レストランへ。

モリ ごめんなさい、私ちょっと、やっぱり外で待ってますね。みなさんが決めたことには、全部賛成しますから、申し訳ないけど。

ススム ああ、それは、どうでしょう。

キリン 平気だよ。

ユリコ はい、モリさん帰っていい人挙手。(アマネ、ユリコ、ユキチ、キリン、

ススム、手を挙げる。)

ススム じゃ、大丈夫です。

モリ ごめんなさい、またあとで。

モリ、退場。

ミミ 私も。

キリン ダメ。

ミミ なんて。

キリン なんとなく。

ミミ あれ、あれですね。

ススム そろそろか。

ユキチ (テラスに) コウドウ、時間。

▲コウドウ おお。

コウドウ、レストランへ。

コウドウ じゃ、はじめるか。

ススム どうします。

ユキチ プレゼンしようよ。

キリン マジで。

ユキチ (ミミに) このひとみんな知らないワケだし。決意表明みたいな。

ススム みなさん、どうしますか。じゃあ、時間は一分以内でお願いします。

ユキチ 誰から。

コウドウ お前は後ね。

ユキチ なんでよ。

アマネ 私。

コウドウ よし、アマネ。

アマネ タカハラアマネです。アマネは天国の天と書きます。パン屋です。パン作りです。月行きます。(一同拍手。アマネはパンを作り始める)

コウドウ なにしてんの。

アマネ 作るうと思って。

ユリコ パン。

アマネ 豆腐に見えるか。

コウドウ じゃ、次誰。決めてね。

アマネ ユキチ。

ユキチ サンキュー。カンバラユキチ、生まれは東京育ちはシドニー、東京大学大学院法学政治学研究所卒業、現在衆議院議員、みなさまのおかげです。初代月大統領になります、get back to the moon。(一同拍手) ユリコさん。

ススム いま帰るって言ったよね。

ユキチ ノリだよノリ。

ユリコ ショウジユリコです。金融の会社で働いています。天文学者が夢で、ドイツに留学してました。趣味は、お散歩、映画を見ること、ごはんをつくること、あとそれを食べることと、お酒。月には。行きません。ススムくん。

ススム えーと。あの、イシヤマススムです。

ミミ ニシヤマ。

ススム イシヤマです。石の山が進むと書きます。イシヤマです。とくにこれ

とって、ないんですけど、ああ、バイトです。三〇にもなってバイトは、あれですけど。よく本読んでます、テレビは、見ませんけど、ネットはすごいやります。月には。行きたいです。(一同拍手) キリンさん。

キリン おはようございます。オノデラキリンと申します。二五歳デパガです。シンクロやってたんで、週三回はプールに行きます。テレビと買い物と旅行が好きですけどだからってバカだと思うやつはバカだと思えます。夢は、月面初のエレベーターガールになることです。フライミートウザムーン、サンクスアロット(一同拍手) コウドウさん。

コウドウ コスギコウドウです。趣味はこれとってないですが、中高大とアメリカでして、ボクシングでけっこういいせいきました。あー、宇宙飛行士が夢でしたが、目がダメで。まあよくある話ですけどね。それで人工衛星の会社に入って今勤めています。月に行き、生活します。ご静聴感謝。(一同拍手)

ミミ(に) じゃ、キミ。

ミミ あれわたしもですか、あれじゃないですか。

キリン だって、一応さ。

ミミ あれですよそれ。

ユキチ いよう、トリ。

ススム ミミさん、がんば。(一同拍手)

ミミ エーあれ、あれです、セガワミミです、ミミのミミは耳と書きます漢字で、えーと、あれ、家事手伝いです。えーと、すみませんでした今日は、やさしくしていただいて、あの、間違えてました、夜ハナちゃんの結納なんですけどそれと、月面開発機構職員のあれです、セガワハナですが、すみませんご迷惑おかけしてるみたいで。月に行くなんてみじんも思ったことないんで、すごい勇気ですよね、なんかほんとすみませんこんな、しゃべって。終わりです。

(一同拍手)

ススム 全員かな。

ユキチ さて、どうすんだ、これから。

キリン じゃんけん。

アマネ 正論だね。運まかせ。ラッキー。

キリン アマネ。かわいいなあ。

ユキチ (ヘルメットとピコピコハンマーを見て) これで決めたらいいんじゃない。

キリン これ誰もってきたの。
ススム ぼく。でも、やめようよ。これ負けたことないよ。

コウドウ じゃ、やってみよう。勝ったらオレが行く。(ススムとコウドウ、じゃんけんで片方がハンマーでたたいて、負けた方がヘルメットで防ぐゲーム。
ススムが勝つ)

ユキチ すげえ。

ススム これだけは上手いんです。

ユリコ どうかな、それ。

キリン 私もやりたい。

ミミ じゃじゃ、わたしも。(勝負する)

コウドウ やめなさい。

ススム で、まじめな話どうしましょう。

ユキチ 選挙じゃない、やっぱ。

ユリコ それで一人選ぶの。

ユキチ まあ、そうね。

ユリコ 大変じゃない。

ユキチ でも、一番民主的じゃん。

ススム 全員一致をとりませんか。行きたい人の主張をさ、もう一度聞き直して。

ユリコ 本気で。六〇分で。

アマネ もうさんざん話した。

キリン でも、それが一番いいんじゃないの。今までだってなんとかしてきたじゃない。

ユキチ 落ちたけどな、試験。

キリン それは、いや、ここまですが試験なんだよ。

ユキチ というと。

ユリコ ここで一人選ぶっていうところまでが、月面移民選考プログラムなんだろうな、ってことですよ。

ユキチ 賢いこと言うね、めずらしく。

キリン だからある意味では私たちは合格していたんじゃない。自信持っていないよ。

ユリコ カットスロート。カットスロートにしましょう。

ユキチ 首切り。

ユリコ 多数決で一人一人資格を失う人を選んでいくの。

キリン 行けない人を選んでいくってこと。

ユリコ そう。それが、一番効率的で公平だとおもっ。

キリン そんなの、選べない。

アマネ 賛成。

キリン なんて。

アマネ 確実だから。

コウドウ ユリコはどうするの。

ユリコ 遠慮する。

コウドウ うーんと。

ユリコ 残りの五人を考えましょう。

コウドウ そりゃ楽でいいよ減ったら。でも、ありゃなんだったんだ、三次(試験)のプレゼンは。オレスごいと思っただよ、こいつすごいって。

ミミミ どうなだったんです。

キリン 天文学かじった人なら誰でも月で星を見たいって言ってたよね、こっちからじゃぜんぜん比べものにならないからって、ユリコ。

ユキチ だね、オレもあれしびれたよ、やっぱちげえやとか思ったし。

ススム いやもっと上手く言ってたんだよこれをこの人たち、うまくあれできないけど。

ミミミ 分かりますそれ。

コウドウ ちょっとがっかりだな。

ユリコ 変なの。いいじゃない、どうせ行けるの一人なんだから、そこでしょ重要な。変だよコウドウさん。

ススム 進めましょう、ユリコは、辞退するそうですから、それで異論ある人。

キリン なんて？

ユリコ だって、(ススムくんが) いないところに行っただって。

キリン わかった。

ススム うん。じゃあ、話進めるよ。一人一人検討して、一番ふさわしい人を選びましょう。

ユリコ ラチあかないから、どんどん落としていこうよ。

キリン だめ。

ユリコ 時間なくなっちゃうよ。

キリン ケンカになるよ。

ユリコ いいじゃない、仲がいいほどよくケンカしよ。

キリン ユリコもういいじゃない、行く気ないのに口出すのダメだよ。

ユリコ 選ぶ権利ある。

キリン ユリコは意見する権利がないと思います。賛成の人挙手ねがいます。

ススム わかるけど、まずいよ。

ユキチ ユリコのある意味理にかなってるし。

キリン あ、そう。

ユキチ いやキリンは熱いところ格好いいよ。でもあと、

ススム 四〇分。

ユキチ それしかないわけじゃなか。あんま長い話するより、

キリン じゃあ誰でもいいから一人選ぶってこと。

コウドウ そう。誰でもいいから一人選ぶんだ。

ススム ぼくの案とユリコ案があります、他にありますか。なければ多数決で。

ミミ すみません。私もやるんですか。

ススム お願いします。

ミミ はい。

ススム ぼくの案のかた。(キリン、ユキチ、ミミ挙手)ではユリコ案の方。(コウドウ、ススム、ユリコ、アマネ挙手)ユリコ案でいきましょう。でもごめんよ、けいなこと言っていていいですか。これ、やっぱりベストじゃなくて仕方なくって案だと思います。ほんとはみんなやりたくないと思うけど、こういうとき消去法が一番、さ。

キリン わかってる。

コウドウ 時間で区切るか。一〇分ごとに一人ずつ選んでいけばいいわけだ。過半数でなくても、その場で一番拳手の多かったひとが資格を失います、オーケー。

ススム ほんと、これ、恨みっこなしですよ。

ユキチ ドキドキするな。

アマネ 遊びじゃないよ。

ユキチ 気楽にやるうや、な。

ススム だね。

キリン どうやって。

ユキチ これ、食おう。(みかんを出す)

ミミ ありがとうございます。

ユリコ 高かったでしょ。

ユキチ 農業再生プロジェクトで、つくってんの。これ岩手産なんだぜ。

ススム へえ。すっぱい。

コウドウ うまい。

ユキチ でしょ。昔はお茶とみかんは静岡だったんだけどね。

アマネ へえ、マンゴーじゃないんだ。

コウドウ ここ一〇年だよ、静岡マンゴー。

キリン 甘い方が好き。

ユキチ バカミカンはすっぱい方が美味いんだよ。

キリン 選べないよ。

ススム でも、選ばないとね。

コウドウ もしもさ、おれ等の住んでるブロックが月でだよ、なにかの事故にあって、三人が閉じこめられたとしてさ。救助隊が来るのは七十二時間後、酸素は四八時間分とするじゃないか。

キリン わかってるわよそんなこと。でもわたしは三人で助かる方法を考える。

コウドウ そうか。オレもそうする。

キリン だからさ、六人みんなで行く方法、

アマネ そういうところ、えらいよ。でも、ダメだ。誰かを選ばないと。

キリン あきらめなければ、なんかあるよ。

ユリコ そういうの、いるかもね、上で。

コウドウ 確かに物わかり良すぎかもしれない。

ススム じゃ、ちょっと考えてみます。前提として、開発機構の移民えらび、ここまで含めてやってますよね。

コウドウ だるうな。

キリン ハナちゃんやつつけて、ボクシング。

コウドウ まかせとけ。

ユキチ 他のグループも同じように動くなら、いけねえかな。

ススム まあね、連絡先なんてその気になればわかるし、やっちゃダメだけど。

ユキチ そんなことできんの。

ユリコ パソコン友達だもんね。

ユキチ あんなピコピコより役立つじゃん。

ススム バレたら捕まっちゃうよ。

ユリコ 六人じゃ、どうにも。結局、選ぶのはあっちだもの。

キリン ユリコ、もう興味ないんだ。

ユリコ シリウス、カノープス、リゲル・ケンタウルス、アークトゥルス、ベガ、カペラ、リゲル、プロキオン、アケルナル、ベテルギウス、ハダル、アルクス、アルタイル、アルデバラン、アンタレス、スピカ、ポルクス、フォーマルハウト、デネブ、ベクルクス、レグルス、一等星二一個。はじめて全部言えたのはいつつのおとき、自分の名前より先に夏の星座が描けた。全員を選んだっていいけど、ここまですごいプログラムだとしたら選べない。もうみんなで一人一人落としていこうって、言葉は悪いけど決めたんだから。時間切れなんて、一番かっこわるいよ。

アマネ 私はユキチが落ちると思う。うるさいから。

ユキチ え、それだけ。アマネは、どうかな、パンだろ、なくてもいいじゃん月に。

アマネ 食べるってのは、ヒトのすごい大事なことだ。ヒトを幸せにするのは食べ物だし、食べ物はパンだ。私は月のヒトにおいしいパンを食べてもらいたい。

ユキチ おいおい、政治家だって、

アマネ お前は、親の力でうまくやってるんだ。自立してから来たって、遅くない。

ユキチ 逆だよ、オレは親父の力の及ばない世界に行きたいんだって、言ってるのが。今行かないと、どうせ既得権益まみれに決まってるんだ、そういうしがらみのない世界で、自分の力を試したいわけよ、もう二世だ族だって、そういうのうんざりなんだよ。

ススム いらなんて言っちゃうと、ぼくなんかほんとただのフリーターなワケだけど。

キリン エレベーターガールはいるよね、軌道エレベーターってさ、やっぱり世界最高のエレベーターなワケでしょ、そこには世界最高のエレベーターガールが必要じゃない。

ススム 軌道エレベーターってなんだか知ってる。

キリン だから、世界最高のエレベーター。

コウドウ たぶんいないんじゃないかな、エレガ。

ユキチ エレベーターガールって、よその国で見たことないぜ。

ユリコ ああ、そういえば。

アマネ (日本でも) 最近ない。

キリン なになにに、じゃあ私なんかいらなんてこと月に。

ミミ でも、キリンさんみたいな正しい人っていうか、あれですよ、きっと。

ススム あれってどっちの意味。

ミミ ああいい意味です、もちろん。なんか、だっていいですよこの人。

ススム あと四分です。コウさんは。

コウドウ うん、そうだな、まあ男よりは女の子に来てほしい。

ユキチ ちよちよ、そういう尺度はねえだろ。

コウドウ バカお前、重要だよ最重要だよ。

ユキチ だって彼女いるじゃんコウドウ。

コウドウ 関係ねえよ。

ユキチ "All you need is love" を口づち。

アマネ “Love is just a game!”

ユキチ そうそうゲーム、ってちがうの。良く行くバーがあって、いつもギネスを頼む女がいるんだ。名前は知らないし何をやっているのか聞いたこともない、聞きたいと思わないし、だいたい連絡先も知らない。公務がばたばたしていると二三ヶ月行かないし、行ったところでギネスがいるとは限らないけど、顔を合わせたときは必ず朝まで呑んで、店を追い出されたらホテルに行く。ギネスの腕を眺めているときが一番幸せだな、俺腕フェチだからね。腕が長くて二の腕がきゅっとなめらかで、脇や肘もすべすべとしてる。健康的な小麦色に良く映える浅葱色のマニキュアと、女には大きい手と薬指にはずしたことの無いダイヤモンド。それが答えだし、それ以上彼女に踏み込むつもりもない。ま、刹那的なもんですよ、無責任っていうかね。まさに Love is just a game みたいな。あなたたちが一人ででも月に行くというのは自由だけど、俺はそれを我慢できないね、そんな無責任なことってないよ。目の前にいる人の幸福を考えられない奴に、新世界を開拓する力はないっしょー。

コウドウ それは、論理のすり替えだろう。

ユキチ そうか、結構本質をついてんじゃない。

コウドウ 感傷的だな。

ススム ユキチさんにとって、相手の幸福って何ですか。

ユキチ そんなの聞かないと分からないよ。

ススム ですよ、じゃあ、本当に相手の幸せを願っているかどうかなんて、

ユキチ 目を見れば解ることだってあるだろう身近な人間ならなおさらだ。

コウドウ 俺はお前じゃないよ。

ユキチ ま、自分の意見を押しつける気はありませんよ。ただみなさんに、この場の選択はその本人にだけ影響を与えるわけじゃないことを、よくご理解いただきたいってだけです。

キリン つまり。

アマネ 相手だけじゃなくて、家族とかパートナーも考えて選べってことだ。

キリン なるほど。じゃあ最初っからそう言えばいいじゃん。

ユキチ あ、言ってるんだけどね。

コウドウ お前が行くことになったって、親父さんが泣くだろ。

ユキチ 厄介払いが出来たって大喜びだよ。

コウドウ おふくろさんは。

ユキチ 家庭の事情ってやつでね、いろいろあんだよ。お前こそ、両親が泣くんじゃないの。

コウドウ もうずいぶん前に鬼籍に入っている。

ユキチ ああ、それは申し訳ない。

コウドウ 両親どちらかが健在なひと、挙手願います。(コウドウを除く一同挙手)ありがとうございます。

ススム そろそろだけど、みんな、決まりました？

キリン 早い。

ススム すみません。みなさん、言い残したことないですか。じゃあ、名前アイウエオ順でいい。資格を失う人を選んでください。アマネさん。キリンさん。

コウドウさん。ぼく。(ユキチ、ユリコ、キリン、挙手) ユキチさん。(コウドウ、ミミ、アマネ、ススム、挙手)

ユキチ 決まりじゃん、ね。これ。

ススム 次、いきましよう。すぐやりますか。

コウドウ いや五分あげた方がいいんじゃないか。

キリン なんか、気持ち悪い。ちゃんと言おうよ。わたしは、ススム、ユキチの言ってたこともっともだと思ったから。

ユリコ 私(がススムに挙手した理由)は、わかるよね。

ススム ぼくは、アマネさんとおなじ意見です。

ミミ あの、ノリだけな気がしたんで。もちろんそれだけじゃない人だとも思うんですけど、なんかそんなあれがあったんで。

コウドウ ユキチは口数が多すぎる。

アマネ うん。

ユキチ マジすかそれ。

コウドウ ああ。お前がそれわからないってのが理由。

ユキチ いやあ、失敗した。

ススム 何が。

ユキチ これ、最初にライバルをぶつつぶさないで勝てないルールなんだな。

ターゲット間違えたよ、コウドウ。

コウドウ 残念だ。

キリン 見苦しいよ。

ユキチ "I've got blisters on my fingers!"

ススム 進めますか。申し訳ないけど。

コウドウ 申し訳ないっていうのはやめよう。失礼だ。落選者に。

ススム すみません。

キリン 次はちゃんと、最初に一人一人検討しよう。今みたいに、この人はこうだって。ちょっと時間足りないし、一人二分くらいで。

ススム 休憩は。

ユリコ いない。

コウドウ おいおい。

ススム ほかにご意見は。

コウドウ タバコ。

ススム がまんしましょう。じゃ、残ってる順でいきますか。アマネさん、どうですみなさん。

ミミ 無口です。

ススム パンおいしいです。でもパンください。

キリン 無条件に友達。

コウドウ コミュニケーション得意じゃないよね。

ユリコ (パンの) 作り方教えて。

ススム なんて月なの。

アマネ (成功が) 早いから、ライバル少ない方が。

コウドウ 月、意味ないじゃんか。

アマネ それ言い始めたら、月でなくちゃいけない意味なんて誰にもない。
ススム そうだね。ユキチさんは。次進みます。キリンさん。

キリン かわいい。

コウドウ (エレベーターガールの) 仕事ないぞ。

キリン そのうちできるわよ。

ススム ちょっとときびしそう。

ユリコ 優しいヒステリー。

ミミ 優しいですけど、あれですよね、はってありそうですね。こわれもの注意とか。

ススム ムードメーカーっぽいかな、ユキチもそうだけど。

コウドウ 意外と賢いし、大事なことはわかってるタイプだけど、ちょっとバカだな。

アマネ 良い友達。

ススム 他になければ、コウドウさん。

キリン しきり屋。えらそう。

ススム 暗い過去背負ってそうです。

ミミ 彼女あれ、きれい。

アマネ もっともなこと言うけど、うさんくさい。

ユリコ 乱暴なのは照れ屋だからですよね。

コウドウ これめちやくちや恥ずかしいな。

ススム がまんしてください。

アマネ パンも食べよう。

コウドウ お米の国の人ですから。

ススム 終わりかな。もっと言いたいことがある人。

ユリコ 彼女、どうするんですか。

コウドウ 選ばれてから考える。

ユリコ 選ばれたら、どうするんですか。

コウドウ 前も言ったる。

ユリコ 今言って。

ススム 次、いきます。ぼく。

コウドウ 好プレー。気配りのススムくん。

アマネとキリン 暗い。

キリン けど意外とまとめ役。

ミミ 奥さんきれいですよね、あとあれです、いい人。

ユリコ 奥さんどうするんですか。

ススム 次、

ユリコ 奥さんどうするんですか。

ススム 大切にしています。時間、もうちょっとありますけど、

ユキチ どういう基準で、落とす奴選んでるのか、聞いて良いかな。

ススム いい、と思います。僕は、単純に自分が月と一緒に住みたいかどうかで選んでいます。

ユキチ オレとは住みたくない。

ススム そうは言ってますけど、消去法でいくとそうなります。

ユリコ 私は、ススムくんさえ落とせばそれで良いの。

ユキチ そんな理由。

ユリコ いけない。私は真剣なだけ。

ユキチ オレには信じられないな、そんな個人的な考え方。

キリン 私は、大切な人を大切に出来ない人には、行ってほしくない。

ユキチ おれは大切にしてる。

キリン あんたに挙げてないでしょ。

ユキチ 同じことだよ。

コウドウ お前は何が聞きたいんだ。

ユキチ 別に。ただ、この先も基準が分かった方が良いでしょう。冷静になれないとこくらい大目に見てくれ。

コウドウ オレは、行くべき人間を客観的に選んでいる。

ユキチ なれんのか。

コウドウ なれるよオレは。

アマネ 私は、ふつうのひと、が良いと思って選んでる。どうしたらいいと思うんだ。

ユキチ オレは、オレは。あ、だめだ。考えられねえや。

ススム 次の投票に移りたいと思います。異論はないですか。アマネさん。キリンさん。(アマネ、コウドウ、ススム、ミニ、挙手) 四人、過半数です。

キリン なんです。

アマネ キリンは、優しすぎるから。

キリン ちょっと、今の無しで、もう一回、ね、もう一回。ちやいちやい、いまのちやい、なんて。ね、いいでしょ。

アマネ 甘ったれるな。
キリン だいつきらい。

キリン、テラスに出る。

ススム ちょっと、待ちましょつか。
ユキチ ごめんタバコ(ちようだい)。
ススム いいけど(タバコをあげる)。

ユキチ、テラスへ。

ユリコ 残念ね。

コウドウ 禁煙訓練だな。

▲ユキチ (タバコに火をつける。むせる)ああ美味い。

▲キリン まずそう。

▲ユキチ まずいよ、超まずい。

ミミ なんかあれですね、あれになってきました。

ススム つらい。

ミミ てか、楽しくなってきました。

ユリコ ハナちゃんみたいね。

ミミ ああー。

▲キリン 裏切られた。

ミミ こんな思いまでして、行きたいものですか、月。みんなで諦めちゃって
もいいわけですよね。

ススム 僕は。

▲ユキチ 誰もお前を裏切ってなんかいない。お前が勝手に裏切られたと思っ
てるだけだ。

ススム それは無責任だと思う。

▲キリン 馬鹿じゃないの、死んじゃえよ。(ユキチを叩く)

▲ユキチ ああ、ばかです。

▲キリン 馬鹿、馬鹿。

▲ユキチ 馬鹿。

アマネ 青春。

ユリコ いい年して。ちょっとつらやましい。

ススム、テラスへ。

▲ススム (テラスに) そろそろ、続けますよ。

▲ユキチ おう。

▲ススム 大丈夫。

▲キリン なわけないでしょバカ。

▲ススム すみません。

▲キリン ユキチ。ごめん。

▲ユキチ おう。気にすんな。

キリン、ユキチ、ススム、レストランへ。

ススム さっきまでと同じ進行で問題ないですか。

ミミ わたし、もうちょっときちんとあれたいです、なんで宇宙に行きたいか聞きたいです。本当はみなさんにお伺いしたいんですけど、やっぱりあれなんで、今の人たちだけでも。

ススム 他にご意見は。じゃ、一人三分くらいでお願いします。じゃあ、アマネさん、お願いします。

アマネ 私からばかりはイヤだ、アイウエオ反対順しよう。
ススム はい、じゃあ、残りの三人のうち、一人を選ぶことにします。じゃ、進めます。最初は、あ、ぼくか。ええ。ええー。あの、ぼくは、ほんとダメなんです。今年で三二ですけど、大学出て、えーと、コンビニとかでバイトして、なんか、パソコンとかゲームとか、そういうので、ダメなんです。なんか。でも、本当にわかんないんですけど、ぼくにはすぐすぐすてきな奥さんがいます。

本当にもつたないんです、この奥さん。もつたないんですけど、いるんですぼくには。で、ぼくは奥さんと、逃げ出したかったんです。ここから。えーと、それが最初の動機みたいなあれなんです、あれっていつか、動機なんです。でも、いまは、遠くに行きたいんです、一人でどこまで行けるか試してみたいんです。それは、帰る場所が、あるからです。帰る場所があれば、ぼくはどこまでだっていけると思うんです。ぼくはこんなに、なにかをやりたいと思ったことは今までありません。月で、新しい街をつくる手伝いなんか出来たら、本当にうれしい。怖いんですけど、怖いんですけど、とても。終わりです。(一同拍手)
コウドウさん、いいですか。

コウドウ うん。すごく冷静に考えて、おれはおれが一番行くべきだと思うんだ。それは知識もあるし、経験もある、経験っていうのはまあ、宇宙開発に携わったってことだ。まあはっただけだな。弱点があるとすればタバコだが、タバコはやめる、やめるって言うか吸えないんだだけだ。それに、おれは、いや、違うな。行きたい。もうなにをしてもどんな格好悪くても行きたい。土下座すれば行けるなら土下座するし、彼女と別れば行けるというなら。おれは別れる。人殺しもしかねない。いや、しないよほんとは。あー、最後に必要なのは、結局そういう強さだ。なんか、オレ必死だな。はは。ああ。以上。(一同拍手)

ユキチ 偉そうなこと言って結局最後は行きたいじゃねえか。

コウドウ うるせえ。

ススム 最後、アマネさん。

アマネ あの、まず、パン焼けたんで、食べてください(とパンを配る。)私なんか別に月に必要じゃないんです。だって、別にパンとか、いらさないし。ススムさん機械強いし。コウドウさんなんかほんと、半分プロみたいでずるいと思うし。なんか私パン焼くだけだし、すごく普通、べつに日本でもパン焼けるし。いままでそれなりに楽しかったし、まあバカな上司とかいたけど、楽しい。だから私、月に行った方がいい。それは特別なことじゃないってしたい。月の街でもおいしいパンが食べられるってしたい。ふつうのおばさんとかおじいちゃんとか、生きるところをつくるんですよ。私、そういうのなら、自分かけられるから。がんばれるから。(一同拍手)

ススム ちょっと時間あるんで、すこし考えます？

ミミ ぜびぜひあれして。

ススム 二、三分でいいかな。

コウドウ オレとしちやすぐ終わらせてほしいが。

ススム 同感です。でも異存はないんでしょ。じゃあ、一服しましょう。

コウドウ、ススム、ユキチ、テラスに出る。

▲ユキチ 権利ゆずってよ。

▲ススム やですよ。

ユリコ ユキチ、いいよね。

キリン どころが。

ユリコ それに比べて、うちのはなんだ。なんだあのエゴイズム。

アマネ そう。私ススム嫌いじゃないけど。

ユリコ じゃ、ゆずったげよっか。

アマネ いい。

ユキチ、 “let it be.” を口ずさむ。

キリン 美味しい。

ミミ あれですね、みなさん。いけてますですね。

ユリコ じゃ、ミミちゃんにしようか、代表。

ミミ ええ、あれ無理です。

ユリコ 応援するよ組織票で。

アマネ 本気。

ユリコ うそそうそ、冗談。

▲ススム ユキチさんは挫折とか知らないでしょ。

▲ユキチ そんなことないよ。

▲ススム 試験とか選挙とかで困ったことないでしょ。

▲ユキチ そんなことないつつの、すごいがんばってるのよオレなりに。

- ▲ススム でも勝ち続けてきた、いままで。本当にうらやましいです。
- ▲ユキチ 勝ち続けるってけっこうきついなだけ。正直、今ホツとしてんだ。
- ユリコ いや、でも、実際いくらで動く。
- キリン 一〇〇万くらいで。
- ユリコ はいロマン一丁三〇〇万円なり。
- アマネ 安いロマンは古いバゲットだよ。
- ミミ え、なんですか。
- アマネ 犬も食わない。
- ユリコ 食べたよ、ドイツ時代、貧乏だったもん。
- アマネ 犬。
- ユリコ ワン。
- ▲ユキチ でもやっぱり、今行きたい。
- ▲コウドウ だよなあ。
- ▲ユキチ かつこいいいぜ、お前ら。
- ▲コウドウ やめろよ気持ち悪いな。
- ▲ススム うそぼくだいぶ嬉しかったんですけど。
- ▲コウドウ 男に言われたって。
- キリン ユリコ、大丈夫。
- ユリコ え、何が。
- キリン 顔青い。
- ユリコ 生理だから。
- ▲ススム そろそろ。です。
- ▲コウドウ じゃ、裁かれますか。

コウドウ、ススム、ユキチ、レストランに。

ススム よし。まずは、ぼく、からか。ぼくです。挙手どうぞ。(ユリコ、キリン、挙手)コウドウさん。(アマネ、挙手)アマネさん。(ミミ、コウドウ、ススム、ユキチ、挙手)

アマネ なぜ。聞いていいでしょ。ユキチ。

ユキチ オしちよっと、あの二人、かつこよかったからさ、お前もかつこいいけど。

アマネ 女捨てるような奴はダメだって言ったろ。

ユキチ 考え方は変わるもんだ。

アマネ ミミちゃん。

ミミ 女の人で、すごく頑張ってた、憧れちゃいました。ごめんなさい、ちょっと、でも、あれでした。

アマネ あれって。なに。

コウドウ お前は見つけてるだろ、なにかを。(ススム)こいつはまだだからさ。

ススム 自分じゃなかったらコウドウさんって決めてます。

アマネ くだらない。最後は結局、はあ。

コウドウ 言いたいことがあるなら、言えよ。

アマネ うるさい、命令しないで。せいぜい自分のことだけ考えて格好付けてればいいんじゃないですか。ホント、くだらないよ、あんたたち。

コウドウ そうだな。

アマネ 絶対賛成なんかしない、みんな落ちればいい。

キリン アマネ。

アマネ こんなくだらない連中、

キリン ねえ、もう止めようよ、

コウドウ 言いたいことはそれだけか。

アマネ退場。

キリン アマネ。

コウドウ あいつは帰ってくる。

キリン でも。

コウドウ そういうやつだ。

ススム もし帰ってこなかったら。

コウドウ その時は、その時だ。

ユキチ よし、あと一人だ。最後だけ話にするか。

ミミ あの、そうまでして行きたいんですか。なんか私、ぜんぜんピンと来ないんですけど。

コウドウ 説明したって、わからんよ。

ミミ まあ、別に、私は部外者ですから。

ススム 遠くへ行きたいって、思ったことないの。

ミミ 私めっきりインドア派ですから。

ススム 僕もそう。そうなんだけど。遠くへ行きたいって本能っていうか、欲望っていうか、あるみたいなんだよね。少なくともいまの僕にはある、そういうのが。キツカケはみんな違うけど、それがなかったらこんな思いしてない。

ミミ だから、人を傷つけてもいいんですか。

コウドウ 今まで誰も傷つけたことはないですか。

ミミ それはいいんですけど。

ユキチ こんなのは散々やったよ、あの二週間でな。シンイチロウ、ミゲル、フミ、ツグオ、カオルコ、ナオミ。ディーニジュウイチの連中も、みんないやつらだった。

キリン あのと看とは状況が違っでしよ。私も降りる。おかしいよ。

コウドウ おかしいか。

キリン そうじゃない。ユキチもアマネも可哀想だよ。ユリコだって、ススム、もういいでしょ。ねえ。

ススム いやだ。

キリン ユリコのこと考えなよ。

ススム 考えてます。

キリン じゃあ。

ユキチ まてよ。俺は可哀想じゃないぜ。

キリン めちゃくちゃ落ち込んでるじゃん。

ユキチ そりゃ落ち込むだろ一番に落とされりゃあ。でも、降りねえよ。

キリン 格好つけてる場合じゃないよ。

ユキチ あのな、もっとよく考えるんだよ。

キリン 考えてるよ。考えて、月とか、そっいうのそりゃ大事だけど、こんなやり方納得出きない。納得しちやダメだ。

ユキチ 納得しちゃうダメなこと成り立ってんだよ、世間なんてもんは。
キリン だからってそれ受け入れちゃうの。

ユキチ じゃあお前の言うとおりに、みんなで降りるとするよな。そうしたらお前、明日から気持ちよく生きていけるのか。月に行けたかもしれないひとりの可能性を潰して、仲良くやっていけるか。

キリン 私はこんなこと続けた方が後悔する。コウドウさんが行くことになっても、ススムが行くことになっても、それで泣く人がいるんだよ。

ユキチ 行けなくなって泣く人が出るのはいいのか。

キリン こんなやり方で選ばれて、のうのうと行く神経が信じられない。

アマネ入場

キリン アマネ。

アマネ 悪かった。

キリン アマネ悪くないよ。もうやめよう、無理だよこんなの。

アマネ 大丈夫だ。

キリン アマネ。

アマネ そういうところ、うらやましいよ。お前が父親の目指した場所に行きたいってのは、そんな軽いものだったのか。違うでしょう。

ススム それ、なに。

アマネ キリンのお父さん、五年前のアイ・エス・エスのデブリ事故で亡くなってるんだって。

ミミ ええ。

ススム 知らなかった。

コウドウ そうか。

ユキチ 俺も初耳だ。

ユリコ そうなの。

キリン アマネ。

アマネ ごめん。

キリン 父親って言っても、あったことも無い人だし。私はただ、あのひとが

お母さんを捨ててまで目指した場所っていうのを、見てみたかっただけで。

アマネ みんな同じような思いを抱えてるんだ。邪魔する権利は、私たちにない。

キリン 悔しくないの。

アマネ 悔しいに決まってるでしょ。でも、誰かは選んでおきたい。キリンはちがうの。

キリン もう嫌だよ。

コウドウ 頼む。続けさせてくれ。

アマネ 続けよう。

ミミ はははははは。

アマネ 何がおかしいの。

ミミ いえ、本当に、人種が違うってこと、あるんだな。って。キリンさんの物分りの悪さ、あれだと思えます。いい意味で。

ススム あと一〇分です。七分は会議、それで決を採って、その決には全員一致で従う、というのはどうでしょう。

ユキチ 今回、ススムとコウドウに選挙権なしね、あたりまえだけど、意味ないから。

コウドウ じゃ、それで行こう。他に意見は。ない。よし。

ユリコ ねえ、月移民の値段で、いくらだと思う。

ススム は、値段。単純計算で、月までに旅費片道、向こうでの居住費、月面移民法に基づく手当五分分、あと、なんだろう。

ユキチ ワクワクとドキドキ。

ススム それプライスレスでしょ。うー、ざっと四千万円くらいですか。

コウドウ そんなもんだらうな。

ユリコ それは四千万で買えるもの。

キリン ちょ、

ススム 意味がわからない。

ユキチ あ、いいっすよ、贈賄、贈賄、ぞーわーい。

アマネ ユキチ、

ユキチ 金の問題じゃねえよ。

ユリコ 私コウドウさん押すよ、でコウドウさんに賛成の人、一人二千万円で、どう？

キリン やめて。そんなの違う、そんなのじゃない。

ミミ あの。残念ですけど、あれですよ、それ厳しいです、だってぜったい盗聴されてますもん。下手したら、どっかから見られてますよりリアルタイムで。それくらいしてますよ、ハナちゃん。

コウドウ ユキチ、おまえ、なんか面白いこと言え。

ユキチ (ご自由にどうぞ)

コウドウ お前、ほんとフリに弱いよね。

ユキチ 急すぎるんですよ。はい、すみません。

コウドウ オしさ、ほんと自分がイヤになっちゃうときってあんだけど、これ、いまだに全然月行く気よ。できれば、もっとのんびり決めたかったな。

ミミ いや、これでいいんですよ、だって、そういうときもありますよ。私たち、ふつーですもん。

ススム そうだね。時間、なくなっちゃいそうです。

ユリコ あの日は雨が降っていた。その年の夏は良く晴れていて頭が働くなるくらい暑くて、一雨ごとに涼しくなると怖くなって。私は院生で、天文学者になるうかどうか迷っていて、ススムくんを選んだ。雨の日は頭が冴えるんだ、頭は冴えるんだけど、身体はだるくなって、判断力はニブルんだ。ススムくんはうちのマンションの一階のコンビニでアルバイトをしていて、私が夜中に行くといつも顔色悪そうに立っていた。絶対目を合わせないのね、あれ、なんでなんだろ。声もぼそぼそしてて聞こえないし、はっきり喋れよって、感じ悪いなっていうのが第一印象。ドイツに戻って、なけなしの奨学金で家族を養うことなんて出来ないと思ったし、天文学者なんて偉くなったってちっとも儲からないし、現実的じゃないんだって。夜中にゴミ捨てに降りたとき、お弁当の廃棄っていうの、捨てちゃうやつ、なんかいっつも変なところにおいてあるなーと思って、それ、浮浪児が取りに来るのね。ススムくんいっつもお礼の手紙は嬉しいんだけど、ばれちゃうとまずいからもう良いよって言ってるの聞いちゃって。ススムくん、行かないで。

ススム ユリコ、ありがとう。ごめん。

ユリコ ばかばかばかばかバカ。

ススム うん。ありがとう。

ユキチ 気持ち切り替えてこ、へいバッチこいやー。

ミミ あはははははは。

キリン 時間だ。

ユキチ 最後だし、コウドウ、なにか喋る。

コウドウ いまさら。

キリン ススムは。

ススム ぼくは、ぼくも、いやぼくは、ああ、どうしょ。あの、なんか、でもね。ユリコがいるから、月に行くって、わかんないですよね。

アマネ 時間です。最後の投票します。代表にしたい人間、選んでください。

ススムさん。コウドウさん。(ススムとコウドウをのぞいた全員が拳手)

ススム こりゃ、もう、ちょっと、ごめんなさい。

ススム、退場。ユリコ、退場。

ユキチ じゃー、コウドウ、いつてらっしゃいー。(一同拍手)

コウドウ オレが同じ立場だったら、祝福できないと思う。尊敬します。

ユキチ ま、人間出来てますからね。

アマネ パンも食べる。

コウドウ たまには。

ユキチ 彼女はオレに任せとけ。

コウドウ ふざけんな。

キリン エレベーターガールの必要、広めといて。

コウドウ ああ、善処します。

ミミ あれです、なんか、勉強になりました。

コウドウ ぜんぜん賢いなキミ本当は。

ミミ 口ほどにもないですよ。

コウドウ ありがとう。

アマネ ススムはこれでいいと思う。

キリン でも、ユリコ可哀想。

アマネ そうか。

キリン もつたいないよ。

ユキチ いやー、ススムいいじゃん。

キリン 絶対。別にいいけど。コウドウさんはさ、モリさんどうするんですか。

コウドウ どうするんだらうな。

キリン いれば良かったのに。

アマネ 変わらないよ。

ススム、ユリコ、入場。

コウドウ 行ってきます。

ススム 好きにしてください。

ユリコ おめでとうございます。

コウドウ お前のためじゃねえから。

ユリコ おめでとう。ほんとうに。

キリン ま、じゃ、ごはんにしましょ。

ユキチ ソースタービン。

キリン ソーラムアイ。

アマネ まあ、決まって良かった。

キリン ね。

ハナ、入場。

ハナ 失礼します。どうです。決まりましたか。

アマネ コウドウさんに。全員一致で。決まりました。

ハナ コスギコウドウさん。グループ全員の総意でコスギコウドウさんが代表者ということで相違ないですか。では、略式ではありますが、イシヤマススム、タカハラアマネ、オノデラキリン、シヨウジュリコ、カンバラユキチ、以上五名を月面都市開発機構総帥フェイ・スワロフスキ代理人、セガワハナの権限を

持って、第一次月面都市への移民として認定いたします。各人には改めて書類が郵送されます。あとのことはその書面に従って手続きされてください。おつかれさまでした。

ミミ なにそれ。

ハナ 仕事。

ミミ おかしいと思わないの。

ハナ 何が。

ミミ 仕事。

ハナ みなさん納得されてるみたいですけど。

ミミ してんじゃないわよあれよ、びっくりしてんの。

ハナ ああ。

ミミ 見てたんでしょ、これ、どっかからさ。それで、なんでそうなるの。

ハナ お前、あれだろ、関係ないだろ、実は。

ミミ ここまであれしてそりゃないでしょ。

ハナ じゃ聞きますけど、なにか、疑問質問がある方、手短にどうぞ。

コウドウ 手短っていうか、えーと、なんで？

ハナ 意味がわかりません。

コウドウ なんですさ、こういうことになっちゃうわけ。つまり、オレは、なんなの、なんか。

ハナ 月面移民法第三条第一項に基づき、選考過程についての問い合わせには一切お答え出来ません。じゃ、後のことは、また書面で。わかっていると認めますけど一応申し上げておきますけど、五名全員の参加が原則です。どなたかが辞退されるのであれば、みなさま全員が辞退されたらみなさまでいただきます。

ハナ、退場。

ユキチ こういうことか。

アマネ 後味悪いな。

ミミ ほんとすみません。

アマネ (ハナっていうか) 会社がひどい。

キリン 逆に吹っ切れたね。いくらなんでも、これはないでしょ。

ミミ やめちゃうんですか。

キリン なんて。

アマネ こんなことが、あっていいのか。

キリン ダメだよ。

アマネ バカにするな。

ユリコ 私のせいだ。私のせいだ。ごめんなさい。

ススム 違うよ。

アマネ そうだ、誰のせいでもない。

コウドウ 軌道エレベーターのステーションユニット、ファンファン。あれの
コアユニット、カーボンナノチューブ精製機構の愛称はチーリン。日本語にす
れば、フェンファンはホウオウ、チーリンはキリンだ。(ススムにライターを渡
す)

コウドウ、テラスへ。

キリン お父さん。

ユキチ オレは行く。

アマネ お前はこれで良いのか。

ユキチ アマネ。オレもススムもユリコも、誰もこれでいいなんて思ってねえ
よ。

アマネ そんな問題じゃないだろ。キリン。

キリン アマネ。

アマネ ユリコさん。

ユリコ ススムくん。

キリン どっちもキツイなあ。

アマネ じゃあ。

ユキチ お前も背負うんだよ。これを。

キリン 月で毎日毎日パン焼いてよ。それしかできないでしょ、アマネ。

アマネ お前はなんにも出来ないじゃないか。
キリン それが怖かったら、はなっから応募なんかしない。アマネが言ったんだよ。

アマネ おまえたち全員バカなのか。こんな会社に付き合ってたら、またおんなじような目に合わされるだろう。

ユキチ こっちにいたって同じだろ。

ススム これ、預かっちゃったから。月で吸わないと。どうやって持ち込もうかな。飲み込めば大丈夫かな。

アマネ バカ言うな。

ユキチ お前は背負うのか、背負わないのか。

アマネ ふざけるなバカ。

ミミ (アマネさんはどうしたいんですか。

アマネ めちゃくちゃにしてやりたい。

ミミ 私、これで行かないって言ったたら、あれですよ。

アマネ お前はなんなんだ、バカもの。

キリン どうしてもイヤなの。コウドウさんのため、自分のため。

アマネ どっちもだよ。

キリン わたし、コウドウさんとか、どうでもいい。(アマネと一緒にいきたい。

アマネ バカもの。

ユキチ バカバカ言ってるバカ。背負うか、背負わないか、お前次第だ。

モリ、入場。

モリ えっと、どうになりました。

ユリコ 悪くないと思う。

モリ ありがとうございます。

ユリコ いや、私たちは、なにも。

モリ 誰が行かれるんですか。

ユリコ 分からない。でもコウドウさんじゃない。

ススム 出よう。

ユキチ ああ。

ミミ ええー。結局どうするんですか。

アマネ 行く。でも二度と会いたくない。

アマネ、退場。

ユキチ これも含めて、背負ってかないとな。

キリン うるさいバカ。勝手に地蔵でも背負え。

キリン、退場。

ユキチ 生まれて初めてだな、こんだけバカ呼ばわりされたの。

ススム (ユリコと一緒に)。

ユリコ (うなづく)(モリに)私、まだ、誰にも、何も、言ってないから。

モリ ありがとう。

ススム、ユリコ、退場。

ミミ なんてしょ、いまの、気になる発言。

ユキチ 君はさ、うーん、いや、どうかなー。

ミミ え。

ユキチ まあ、どっちでもいいんだけどさ。

ミミ あ。いま、フリーですよ。

ユキチ あ、そう。ま、いまとなっちゃんあ同じ事か。

ユキチ、ミミ、退場。モリ、テラスへ。

幕

上演にあたって

上演許可は左記までお問い合わせ下さい。

合同会社Level 19

電子メール

info@level19.net

発行元

黒澤世莉 二〇二一年一月二四日